

③ 縮約形について

韓 先 熙

1. はじめに

話しことばは、書きことばと違って、〈表1〉のように表現されることが多い。

- ・たとえば
- ・口紅ついてる(051)
- ・先に あたしが 言っちゃえば よかった(054)
- ・うちの男子じゃ 相手に なんないね(232)
- ・気づかなかったとでも 思ってんの(058)

などの例であるが、それを縮約形(注1)と呼ぶ。ここでは少女マンガにおける女子中高生の話しことばに現れる縮約形について考察する。

本稿では縮約形が、①対話者(年上・同年齢・年下・性別)の違いによってどのように現れるか、また②その敬意の表出に違いはあるか、③どのような傾向を示しているかなどを、使用率などを通じて検討したい。(縮約形の順番はほぼ前回(注2)にならっている。)

〈表1〉書きことばと縮約形の対応

	書 き こ と ば	話 し こ と ば
(1)	～ ている	～ てる
(2)	～ ておく	～ とく
(3)	～ では	～ じゃ
(4)	～ てしまう	～ ちゃう
(5)	～ ては	～ ちゃ
(6)	～ なければ	～ なきゃ
(7)	～ の	～ ん
	～ もの	～ もん
	～ なの	～ なん
(8)	～ という	～ って
(9)	～ という	～ っていう
(10)	～ ない	～ ねー (ねえ)
(11)	“ の ” の 前 の 動 詞 の 連 体 形 「 する ・ ある 」 の など →	
(12)	わ かん ない	す ん の ・ あ ん の
(13)	そ の 他 { 気 に し て い る	わ か ん ない
	{ そ の あ と	気 <u>ん</u> し て い る
	{ 信 じ ら <u>れ</u> ない	そ <u>ん</u> あ と
		信 じ ら <u>ん</u> ない

2. 調査方法とその例

62の作品に現れる、書きことばの表現とその縮約形を、対話の相手によって年上・同年齢・年下に分類し、さらにそれぞれ家族と他人とその性別に分類した(〈表2〉参照)。次に縮約形の具体例を挙げておく(番号は〈表1〉のもの)(右の番号は作品番号)

〈表2〉

	年 上				同 年 齢		年 下						計	%	
	家 族		他 人		他 人		家 族		他 人		複数 不明	モノ ローグ			
	対女	対男	対女	対男	対女	対男	対女	対男	対女	対男					
(1) ている てる	0 3	0 8	0 9	1 30	0 98	0 85	0 2	0 2	0 1	0 7	1 7	4 83	6 335	98.2%	縮 約 率
(2) ておく とく	0 0	0 0	0 0	0 1	0 3	0 2	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 2	0 9	100.0%	
(3) では じゃ	0 2	0 12	0 3	0 14	0 42	0 64	0 2	0 1	0 0	0 3	0 6	0 57	0 206	100.0%	
(4) てしまう ちゃう	0 2	0 7	0 3	1 20	0 35	0 77	0 0	0 1	0 0	1 1	0 7	0 50	2 203	99.0%	
(5) ては ちゃ	0 0	0 0	0 0	0 2	0 1	0 5	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 7	0 16	100.0%	
(6) なけつば なきゃ	0 2	0 0	0 0	0 4	0 3	0 8	0 0	0 0	0 1	0 3	0 0	0 12	0 33	100.0%	
(7) の ん	0 5	0 13	0 6	3 31	0 61	1 80	0 0	0 0	0 3	0 7	0 4	1 66	5 276	98.2%	撥 音 化 率
もの もん	0 0	0 2	0 2	0 2	0 7	2 6	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	2 5	4 25	86.2%	
なの なん	2 1	1 2	0 2	1 14	4 19	2 15	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	1 14	11 68	86.0%	
(8) という って	0 0	0 3	0 4	0 4	0 21	0 13	0 0	0 0	0 1	0 2	0 4	0 12	0 53	100.0%	縮 約 率
(9) という っていう	0 0	0 2	0 1	0 9	0 19	0 9	0 0	0 0	0 2	0 1	0 0	0 8	0 51	100.0%	促 音 化 率
(10) ない ねー(ねえ)	4 0	13 2	8 1	40 0	21 0	153 0	4 1	0 0	0 0	13 0	12 2	149 0	417 6	1.4%	縮 約 率
(11) するの すんの。など	2 2	1 4	2 1	3 7	15 35	19 38	0 1	0 1	0 1	1 4	2 3	12 19	57 116	67.0%	撥 音 化 率
(12) わからない わかんない	0 0	0 0	0 0	0 1	1 6	2 8	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 6	3 21	87.5%	
(13) その他	0	0	0	0	5	10	0	0	0	0	0	5	20	(注 3)	

- ・どーする？ 終わるの待って₍₁₎？ [108]
(同年齢・他人・女性)
- ・捨てようかどうか迷ってポケットに入れとい₍₂₎ たのに [060]
(同年齢・他人・女性)
- ・急じゃ₍₃₎ ないわ 一晚考えたわよ [069]
(同年齢・他人・男性)
- ・ホッとしちゃっ₍₄₎ た [064]
(同年齢・他人・男性)
- ・一人生きちゃ₍₅₎ いられないよーッ [034]
(モノローグ)
- ・告白なんかしな₍₆₎ き₍₆₎ や よかった [060]
(モノローグ)
- ・せっかく待ってたん₍₇₎ だから [108]
(同年齢・他人・女性)
- ・午後も受けるって₍₈₎ ことは国立コースなん₍₇₎ だ [108]
(同年齢・他人・女性)
- ・ちょっと話しがあ₍₁₁₎ ん₍₁₁₎ の来てよ [067]
(同年齢・他人・男性(婚約者))
- ・でもわかん₍₁₂₎ ない わかん₍₁₂₎ ない [108]
(モノローグ)
- ・たまには家に帰って₍₁₁₎ ん₍₁₁₎ の [065]
(同年齢・他人・男性)
- ・いやだ₍₉₎ って₍₉₎ い₍₁₎ って₍₁₎ てる でしょ [065]
(複数)
- ・私が姉だ₍₈₎ って₍₈₎ ーのがそんなに気に入わ₍₁₀₎ ね₍₁₀₎ ーのか？ [070]
(同年齢(妹)・家族)
- ・え？ 何か困ん₍₁₁₎ の？ 桃子ちゃん お風呂に入ん₍₁₃₎ ないの
[070]
(同年齢(姉)・家族)

・ だけど早いもん₍₇₎、だよな [075]

(同年齢・他人・男性)

3. 考 察

3-1. 縮約・撥音化・促音化の傾向

全体的な縮約率・撥音化率・促音化率長母音化率を示したのが〈表2〉である。100パーセントになっているのは、

- | | | |
|----------|-------|------|
| (2) ておく | ————→ | とく |
| (3) では | ————→ | じゃ |
| (5) ては | ————→ | ちゃ |
| (6) なければ | ————→ | なきゃ |
| (8) という | ————→ | って |
| (9) という | ————→ | っていう |

などである。ほかに、98パーセントを越えているのが

- | | | |
|----------|-------|-----|
| (1) ている | ————→ | てる |
| (4) てしまう | ————→ | ちゃう |
| (7) の | ————→ | ん |

となっている。これらは、女子中高生の話しことばにおいて、縮約がほとんど定着していることを示しているといえよう。100パーセントではない、(1)(4)(7)の縮約になっていない例も、伝聞もしくは回想に近い、自分の感想を述べる時のもので、会話のときはまれである。たとえば、つぎのような例がある。

(4) てしまう)

一枚の写真をひっぱりだして、いつまでも、いつまでも時間を忘れて見
つめててしまうそんな気持ちになったことがある [100]

このように、年下の女の子に自分の経験を回想として述べるときなどには縮約形が使われていない。そのため、(4)のちゃうの縮約率が100パーセ

ントにはなっていないが、実際の会話においてはほとんど 100 パーセント縮約形になっているといえると思う。また、(7) の撥音化の例のなかで、改がえ「『ゲーセン事情と題して取材させていただきたいのですか』とでっちあげれば話もできるし写真も撮れる」〔108〕という例があるが、これも同年齢の女の子に言い方を伝聞のかたちで言い表すときにつかうもので直接話しかけるものではない。このような例をのぞくと準体助詞の「の」もほとんど 100パーセント撥音化になっている。

前回行ったインタビューにおける男性と女性の縮約率・撥音化率・促音化率とを比べるとつぎの〈表3〉のような結果になる。

〈表3〉

項 目			男 性	女 性	女子中高生
(1) ている	→	てる	6 6 % 除 2 例 → (91%)	8 6 %	9 8 %
(2) ておく	→	とく			1 0 0 . 0
(3) では	→	じゃ	9 8	9 9	1 0 0 . 0
(4) てしまう	→	ちゃう	9 7	1 0 0	9 9 . 0
(5) ては	→	ちゃ	1 0 0	8 4	1 0 0 . 0
(6) なければ	→	なきゃ	9 3	9 3	1 0 0 . 0
(7) の	→	ん	} 8 3	} 9 6	9 8 . 2
もの	→	もん			8 6 . 2
なの	→	なん			8 6 . 0
(8) という	→	って	5 3	8	1 0 0 . 0
(9) という	→	っていう	8 3	7 6	1 0 0 . 0

(「男性」「女性」は20才をこえた成人である)

縮約から敬意の表出を考えると、今回は男性に比べ、女性の方が縮約形が多いことから全体的にかならずしも女性の話しことばが丁寧とはいえないという結論になったが、今回の調査では、女子中高生の話しことばは女性の話しことばよりもさらに縮約率が進んでいるといえる。

前回の調査はインタビューの形式であって今回はマンガという資料の特性を考慮しなければならないが、女子中高生の話しことばは成人女性の話しことばより敬意の表出が多くはないと考えられる。

また(7)の撥音化率は、準体助詞の「の」が「ん」になることを表しているが、今回はその中で「もの」(「もん」と「なの」(「なん」)をさらに分類した。

準体助詞「の」の女子中高生の撥音化率は98.2パーセントになるが、「もの」は86.2パーセント、「なの」は86.0パーセントである。「もの」と「なの」は「の」よりは撥音化の傾向が進んでいないといえる。接続助詞の「ので」の「の」の撥音化率は、ここでは「ので」の例がほとんど見当たらないので「の」の項目に含めてある。このほかの撥音化については、後にまた検討を加える。

また、(8)の縮約率と(9)の促音化率は、今回のマンガにおいては「という」表現がひとつも見られないので100パーセントになっている。これは会話において伝聞もしくは同格の表現において縮約化・促音化が進んでいることを示している。

3-2. 対話の相手の違いによる縮約化などの傾向

年上・同年齢・年下・複数／不明・モノローグを、それぞれ百分率で示すとつぎのような表になる。

〈表4〉

	年 上		同 年 齢		年 下		複 数 / 不 明		モノローグ	
	計	%	計	%	計	%	計	%	計	%
(1) ている	1	98.0	0	100.0	0	100.0	1	74.4	4	95.4
てる	50		183		12		7		83	
(2) ておく	0	100.0	0	100.0	0	100.0	0	0	0	100.0
とく	1		5		1		0		2	
(3) では	0	100.0	0	100.0	0	100.0	0	100.0	0	100.0
じゃ	31		106		6		6		57	
(4) てしまう	1	96.9	0	100.0	1	66.7	0		0	
ちゃう	32		112		2		7	100.0	50	100.0
(5) ては	0	100.0	0	100.0	0	0	0	100.0	0	100.0
ちゃ	2		6		0		1		7	
(6) なければ	0	100.0	0	100.0	0	100.0	0	0	0	100.0
なきゃ	6		11		4		0		12	
(7) の	3	94.8	1	99.2	0	100.0	0	100.0	1	98.5
ん	55		141		6		4		66	
もの	0	100.0	2	86.6	0	100.0	0	0	2	71.4
もん	6		13		1		0		5	
なの	4	82.6	6	85.0	0	0	0	100.0	1	93.3
なん	19		34		0		1		14	
(8) という	0	100.0	0	100.0	0	100.0	0	100.0	0	100.0
って	11		34		3		4		12	
(9) という	0	100.0	0	100.0	0	100.0	0	0	0	100.0
っていう	12		28		3		0		8	
(10) ない	65		274		17	5.6	12	14.2	149	
ねー (ねえ)	3	4.4	0	0.0	1		2		0	0
(11) するの	8	63.6	34	68.2	1	87.5	2	60.0	12	61.2
すんの など	14		73		7		3		19	
(12) わからない	0	100.0	3	82.3	0	0	0	0	0	100.0
わかんない	1		14		0		0		6	

年上・同年齢・年下の(1)～(6)までの縮約率を見ると、ほとんど100パーセントである。年下の(4)の「てしまう」（「ちゃ」）の縮約率が66.7パーセン

トになっているのは、3例のうち1例が「てしまう」になっているためであるが、これは前に指摘した例文があるからである。したがって、縮約率から見た対話の相手の年齢の違いによる使い分けは見られない。

(例)

- ・お兄ちゃんね、生徒会長やってるの／だから顔ぐらいはしってるかも
〔065〕 (1) (1)

(年上・他人・男性)

- ・貧血おこして倒れる程、風呂入んじゃないわよ〔070〕
(7)(11)(3)

(年上・家族・女性)

また性別による使い分けはここでは見当たらない。家族と他人との使い分けもここでは目だった違いはないようだ。また年上の他人といっても、先生を指すときと敬意の対象外の人たとえばけんかしている年上の人と一緒にまとめられているので、これだけでは判断できない。

少女のマンガのゆえ、会話の数が同年齢の中・高生どうしのものに集中し、年上・年下の場合に比べその数が飛び抜けて多いことがわかる。

いずれにしても、女子中高生の話しことばの縮約化は対話の相手に関係なく進んでいるといえるであろう。

つぎに、モノローグと普通の会話を比べてみるとほとんど違いはないが、「ている」の例が4例あるためモノローグの縮約率が95.4パーセントになっている。

- ・私の告白を聞いていたの〔060〕
- ・同じ夢をみている〔058〕

これらの例から、モノローグの場合は会話よりは縮約していないかたちが多いように思われる。

3-3. 「ない」と「ね(ねえ)」

最近話しことばにおいて、「ない」(ここには形容詞、助動詞、「あぶない、きたない」などの「ない」を全部含む)の代わりに「ねー」が使われる

ことがあるが、ここでは極めて低い割合となっている。年上の対話者に 3 例、年下に

1 例、複数に 2 例のみである。

〈表 5〉

	年 上						同 年 齢				年 上						複数 不明	モノ ログ	計	縮 約 率
	家 族		他 人		計	%	他 人		計	%	家 族		他 人		計	%				
	対女	対男	対女	対男			対女	対男			対女	対男	対女	対男						
な い	4	13	8	40	65	4.4%	21	153	244	0.0%	4	0	0	13	17	5.6%	12	149	417	1.4%
ねー (ねえ)	0	2	1	0	3		0	0	0		1	0	0	0	1		2	0	6	

・私が姉だってーのがそんなにきにくわねーのか〔070〕

（これは双子のうちその姉が文句をいうときである）

・兄ちゃんがあまりキラウから魚のオバケが夢にでも出て来ておどされてもしたんじゃねーかって〔290〕

（兄がいったことを伝聞のかたちで伝えている場合）

・危ねーじゃねーか この当て逃げ野郎ーッ オカマーッ〔034〕

・ざけんじゃねえこのオカマ野郎ーッ！〔034〕

（主人公をバイクではねた相手に対することば）

・あーやってらんね家庭教師〔100〕

（相手にはたらきかけることばではなく、モノローグに近い表現）

これらの「ねー（ねえ）」の使用例を見ると、いずれも相手に話しかけるような普通の会話ではない。表現もぞんざいで、目上の対話者相手に用いられるときも、ここに挙げた例のように、相手を蔑む気持ちがうかがわれる。

女子中高生の話しことばは、表 2 の(1)～(6)の縮約形の使用によって、敬意の表出が多くないといえるが、ぞんざいな意を含むと考えられる「ねー」の縮約形は女子中高生の会話ではあまり好まれてはいない。これは「ねー」の使用に際して女の子としての潜在意識がはたらいていると推測される。

3-4. その他の撥音化

「の」の前の連体形は「る」でおわる場合がほとんどである。そのなかで

は「～している」の縮約形の「てる」がかなりの量をしめる。

- ・そーゆー冷たい態度が干架子を不安にさせるのよ〔058〕
（同年齢・他人・男性）
- ・あれ走ってるの 吉本〔072〕
（同年齢・他人・男性）
- ・きっと学校みんなはそんなふうにあたしたちのこと見てるのよ〔098〕
（年上・家族・兄）

これらは、「の」の前で撥音化になりやすいのである。全体の173 例のうち116 例が撥音になっている（67パーセント）。その半分以上が「～ている」が縮約された「てる」の中の「る」の撥音化である。

- ・なにすんのよ〔051〕
（年上・他人・女性）
- ・なんで こんな日に用事が あんのよ〔054〕
（モノローグ）
- ・同情 されんのは もっと悔しいから〔058〕
（同年齢・他人・女性）
- ・成績落としても いい程 バイクに入れこんでんの文貴〔072〕
（同年齢・他人・男性）
- ・なにいってんのよ〔051〕
（年上・他人・女性）

このほかに、「じゃ」と「な」の前で「る」の撥音化が見られる。

- ・おーよー春（人名）ってば ファンクラブなんかあんじゃない〔053〕
（同年齢・他人・女性）
- ・真心ブラザーズだって うたってんじゃん「時間と場所と自分がそれを許さない」ってさ〔076〕
（同年齢・他人・女性）
- ・やだ かかってくんなら1人ずつにしてよね〔035〕

(複数)

- ・ 1人でこんな大勢の人動かせんなんてトキ(人名) ってホントすごいよ [031]

(同年齢・他人・女性)

- ・ ついてくんなッ [046]

(年上・家族・祖父)

これらを見ると、撥音になった「る」の音は「の」「な」「じゃ」の前で、撥音化になっていることがわかる。これは音声学的に撥音に変わりやすい条件になっているからである。年上にも同年齢にも撥音化がみられるが、準体助詞の「の」の撥音化よりは遅れているものの話しことばにおいて動詞の連体形の「る」の撥音化が進んでいるといえる

その他、ラ行のつぎのような撥音化も見られる〈表 2 (12)(13)〉。

- ・ あたしにも わかんないわよ [052] ; 撥音化率87.5パーセント

(同年齢・他人・男性)

- ・ 信じらんない、あんなのケンカよ、殴りあいよっ [058]

(同年齢・他人・女性)

- ・ そーカンタンにこの3年間の思いはすてらんないから [054]

(モノローグ)

- ・ この分じゃ自分がどんだけでもてるかもわかってないな [070]

(モノローグ)

- ・ そんでいざ完治の顔みたら泣けてきちゃって [053]

(同年齢・他人・女性)

ラ行以外のものの撥音化も見られる。

- ・ 気んなってくる [054]

(モノローグ)

- ・ そんあと バレー部入って美佳と仲よくなって [054]

(モノローグ)

・でもなんも言ってなかったじゃん [054]

(モノローグ)

このほかにいろいろな→いろんな、けれども→けれど、けど、おもしろい→おもしろー、あげようか→あげよっかななどの縮約もみられるが今回は対象からはずした。

4. お わ り に

以上、少女マンガにおける女子中高生の話しことばの傾向を見てきた。〈表1〉の(1)～(6)においては、ほとんど縮約形が使われ、定着したといえるだろう。それは、対話の相手の性別・年齢とはほとんど関わりがないこと、つまり「少女マンガの世界」では、たとえ年上であっても同年齢と同じような縮約した言い方をしていることがわかった。

また縮約形の現れがモノローグと会話ではほとんど差はないが、「している」(「ている」)の場合にその違いが見られた。どちらかという、モノローグの場合に縮約してない形をつかっているように思われる。このほか、準体助詞の「の」の撥音化が著しいがラ行の撥音も進んでいるように見られる。

ところで、縮約が定着したといっても、今回の調査では「ない」が「ねー(ねえ)」になる傾向はほぼ見られなかった。全体的にほとんど形を使い、敬意の表出はすくないと言えるが「ねー(ねえ)」のようなぞんざいなことばは意外に使用がすくなかった。もちろんマンガの資料性を考えなければならぬが、これは女性の潜在意識とマンガ家の意識などが深く関わるもので、単なることばの使用選択という行為にとどまらず、そこには社会的な背景が影響を与えていると推測される。

(注1) これは菊沢季生氏が名づけたもので、もとの語に対して縮約された語形を縮約形という。この場合、縮約とは母音の省略、長母音化、撥音化、促音化などを含んでいる。本稿でもこれにならうこととする。

音声学大辞典－三修社－（1976）

現代言語学辞典－成美堂－（1988）

国語学大辞典（国語学会編）－東京堂出版－（1980）

日本語教育事典－大修館－（1982）

（注2）ことば10号「女性の話しことば」

ことば11号「男性の話しことば」（丸山和香子）

（注3）「気にしている→気んしている、そのあと→そんあと」のような例は縮約してない、もとの語形との比率がとれないので縮約された形の数だけのせておく。

〈参考文献〉

南 不二男 「敬語の機能と敬語行動」－岩波書店（1977）－

“ 『敬語』－岩波新書（1987）

実践はなしことば－NHKテレビ 1991.10～1992.3 テキスト－

堀井令以知 『女の言葉』－明治書院－（1990.5）